

-
- 【1】第19回高校生理学研究発表会の開催概要について
 - 【2】第2回 中高生・教員と若手研究者の「天文対話」のご案内
 - 【3】科学研究発表会（千葉県高文連主催）の結果について
-

【1】第19回高校生理学研究発表会の開催概要について

第19回高校生理学研究発表会が、対面によるポスター発表の形式で千葉大学西千葉キャンパスにて開催されます。昨年同様、オンラインによる発表資料の公開も併用します。募集期間、開催日は以下の通りです。

○募集期間：令和7年8月26日（火）～令和7年9月1日（月）正午（時間厳守）。

応募できる分野は次の9分野です。英語による発表も受け付けます。

- (1) 物理Ⅰ（物理学一般、宇宙物理など）
- (2) 物理Ⅱ（機械工学、電気工学、土木建築工学、ロボット工学、航空工学など）
- (3) 化学Ⅰ（物理化学、無機化学、分析化学など）
- (4) 化学Ⅱ（有機化学、生化学、環境化学など）
- (5) 生物Ⅰ（動物科学、栄養・病理・生理学、心理学など）
- (6) 生物Ⅱ（植物科学、園芸学、微生物学など）
- (7) 地学（地質学、気象学など）
- (8) 数学
- (9) 情報

募集件数は400件を上限とし、募集期間内であっても、申込みが400件に達した時点で募集を終了します。

○ポスター発表：令和7年9月27日（土） 午前、午後でポスターの張り替えを行います。

○発表資料の公開（オンライン）：令和7年9月24日（水）～令和7年10月6日（月）

開催方法等は千葉大学高大連携支援室のWEBサイトの「開催概要」（<https://www.cfs.chiba-u.jp/koudai-renkei/event/> より）をご覧ください。

【2】第2回 中高生・教員と若手研究者の「天文対話」のご案内

中学生、高校生の皆さん、そして、学校教員の皆さん！天文学の若手研究者と最新の天文学について語り合ってみませんか？

日本天文学会天文教育委員会では、このような講演の企画を設け、昨年からは開催しており、今年が2回目となります。

今回の講師は、東京大学の若手研究者の播金優一さん。はるか彼方の銀河の研究についてジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡などを用いて行なっている方で、その研究成果で、2023年に日本天文学会の

研究奨励賞を受賞しています。播金さんの講演のあとには、参加者の皆さんと交流の機会を持ちます。そこで、気になったこと、疑問に思ったことをいろいろ聞いてみませんか？

この企画は、日本天文学会春季年会のジュニアセッションのあとに行なわれるので、ぜひともこの機会に、ご参加ください。

開催日時：2025年3月20日(木・祝) 16時30分 - 18時 場所：水戸市民会館

講師：播金優一(東京大学)

タイトル：ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡で見る宇宙初期の銀河とブラックホール

概要：本講演では、最先端の宇宙初期の銀河やブラックホールについて、ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡等による光赤外線観測を用いた研究とともに、天文学者に至るこれまでの道のり等をご紹介します。

対象：中学生、高校生、学校教員等

形式：ハイブリッド(対面 及び オンライン視聴)

(対面参加は、中高生・学校教員に限定します。オンラインは一般の方も視聴できます)

申込方法：参加希望者は事前にこちら <https://www.asj.or.jp/jp/news/2025/news0122152140.html> web ページのフォームから申し込みください。

※申し込み締切：2025年3月13日(木)

主催：日本天文学会 天文教育委員会 後援：日本天文教育普及研究会

問い合わせ先：kyoiku2023(a)asj.or.jp ["(a)"は"@"に置き換えてください]

【3】科学研究発表会（千葉県高文連主催）の結果について

令和6年11月9日(土)に千葉大学工学部17号棟を会場に開催された科学研究発表会の結果をお知らせいたします。以下の5つの研究発表が令和7年度全国高等学校総合文化祭（香川大会）自然科学部門への千葉県代表となりました。

○口頭発表の部

物理分野：千葉市立千葉高等学校 物理化学部

<研究テーマ> 目詰まりによる排水性能低下を改善したグレーチングの研究

化学分野：千葉県立長狭高等学校 科学部

<研究テーマ> ヨウ素時計反応の誘導時間を決める要素とその原理

生物分野：千葉県立検見川高等学校 生物同好会

<研究テーマ> ミールワームによる海岸ゴミの処理～プラスチックを食べるミールワームはゴムサンダルや化学繊維も食べるのか～

地学分野：千葉県立佐倉高等学校 天文気象部

<研究テーマ> ビニールハウスの形状による防風

○【ポスター発表の部】

千葉県立長狭高等学校 科学部

<研究テーマ> 短誘導期ブルーボトル反応の実現とその理論

【編集後記】

クサガメを飼っている。飼育容器として衣装ケースを使っていたが、日の当たる場所に置くので、

紫外線による劣化で水換え時に、ひびが入ってしまった。2回目である。今度は適度な大きさのプラ船（トロ船）を探して飼育容器とした。衣装ケースは半透明で、カメの様子を横から見ることができたが、プラ船は上からでないと観察できない。しかし、紫外線ライトを点灯させたり、冬にはヒーターを入れたりするので、容器は丈夫な方が安心である。赤ちゃんカメから飼育を始めて、ずいぶん大きくなった。雌だと思うが、亀吉と呼んでいる。（橋）